

～ 研究に関するお知らせ ～

横浜医療センター麻酔科では、下記の研究を行います。

「三方活栓付き動脈血採血ポートが動脈圧測定ラインの周波数特性に与える影響について」

この研究は、条件を満たす患者さん全員を対象といたします。情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、最終ページに記載のお問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

■ 研究の対象となる患者さん

2023年4月1日から2024年3月31日までに当院で麻酔を受ける患者さんのうち、手術中の血圧を測り、採血をするため動脈に細い管を入れる（動脈圧ライン）を実施した患者さん

■ 利用する試料・情報の種類

上記の対象期間中に、診療録に記録された診療情報を研究に使用させていただきます。使用に際しては「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、個人情報 は厳重に保護した状態で行います。

■ 研究の概要

● 研究の目的及び意義

麻酔手術の間は血圧を正確に測ること、採血をしてそれを速やかに分析することが必要です。そのため手術中、動脈に細い管を入れ、血圧を測り、また、そこから採血を行います。このために必要な装置（動脈圧ライン）にはコック（三方活栓）のついた採血部位があります。この三方活栓の向きは血圧を正確に測定するのに重要であると考えられます。しかしその影響については明らかになっていません。

なおこの研究では通常麻酔で得られるデータのみを使用するため、麻酔や手術、身体に与える影響はありません。

● 研究の期間

倫理審査委員会承認日～2025年3月31日

● 研究の方法

手術終了後、麻酔中の血圧波形を調べて、三方活栓の向きと血圧の波形との関係を検討します。

- 外部への情報等の提供、個人情報等の取り扱い

この研究で得られた情報は、あなたを特定できる情報（氏名、住所、電話番号等）は記載せず、本研究固有の症例番号（症例毎に採番）にて管理します。症例番号とカルテ患者 ID 等の対応表データを別途作成します。作成する対応表データはパスワード保護の上、研究責任者が厳重に管理します。

この研究の成績をまとめて学会発表や学術論文として公表されることもありますが、いずれの場合もあなたの名前等の個人的な情報は一切公表されません。また、この研究で得られたデータが、この研究の目的以外に使用されることはありません。

- 研究の資金源

なし

- 利益相反に関する状況

本研究における、開示すべき利益相反は特にありません。

※ 臨床研究における利益相反とは

「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。

■ 研究の実施体制

研究代表者：横浜医療センター 麻酔科 山田宏

研究分担者：横浜医療センター 麻酔科 菅原泰常、大川卓巳、中易夏子、奥山志織、
野島優佳、北嶋宏輝、齋藤真作、末廣かれん
厚木保険事務所 大和センター 井上真光人

■ ご質問等について

本研究に関するご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出下さい。

<お問い合わせ先>

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

麻酔科 手術部長 山田宏

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

電話 045(851)2621（代表）※平日 08：30～17：15